

2010年1月1日～2026年9月30日の間に 膀胱MRI検査を受けられた方およびご家族の方へ

—「膀胱癌のMRI検査における適正な尿貯留量の検証」へのご協力のお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学放射線診断学	教授	玉田 勉
研究分担者	川崎医科大学放射線診断学	特任研究員	竹内 充
	川崎医科大学放射線診断学	准教授	山本 亮
	川崎医科大学放射線診断学	講師	檜垣 篤
	川崎医科大学放射線診断学	臨床助教	児嶋 優一
	川崎医科大学放射線診断学	臨床助教	渡部 博之
	川崎医科大学泌尿器科学	教授	小村 和正

1. 研究の概要

膀胱癌の治療方針を決定するためにMRI検査が使用されます。MRIの役割は膀胱癌を見つけることと、癌の広がりぐあいを調べることです。従来、MRI検査は膀胱の中に適度に尿をためた状態で行った方が良いとされてきました。しかし、これには十分な根拠がありません。また、MRI技術の昨今の進歩によって、もしかすると、膀胱に尿をためる必要がなくなっている可能性もあります。本研究では、過去に膀胱癌の精密検査のために撮影されたMRI画像をふりかえって、膀胱内の尿貯留量と膀胱癌の見つけやすさ、広がり診断の正確さを対比することで、本当に膀胱に尿を貯める必要があるのかを検証します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2010年1月1日～2026年9月30日の間に、膀胱癌に対して膀胱MRI検査を受けられた約220名の患者さんを研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日 ～ 2026年12月31日

3) 研究方法

過去に膀胱腫瘍の精密検査のために撮影されたMRI画像をふりかえって、膀胱内の尿貯留量と膀胱癌の見つけやすさ、広がり診断の正確さを対比します。MRIは通常の診療の過程で撮影されたものを振り返って検討しますので、患者さんには新たに追加の検査を受けていただく必要はありません。

4) 使用する情報の種類

MRI画像、病理所見、カルテ情報(年齢、性別、手術年月日)

5) 外部への情報の提供

なし

6) 情報の保存及び二次利用

この研究に使用した情報は、論文等の発表から5年間、川崎医科大学放射線診断学実験室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。また、この研究に使用した情報は今後別の研究に二次利用させていただく可能性があります。その際には倫理委員会にて承認を得ます。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2026年10月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 放射線科(画像診断)

氏名:児嶋 優一

電話:086-462-1111 内線 25502(平日:9時00分~16時30分)

ファックス:086-464-1123

Email:roentgen@med.kawasaki-m.ac.jp

<研究組織>

研究代表機関:川崎医科大学附属病院 研究代表者:玉田 勉

研究責任者:玉田 勉

3. 資金と利益相反

研究をするために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態といいます。

この研究において外部からの資金の受け入れ及び使用はありません。川崎学園内の学内研究費(例:教員研究費(教員名:玉田 勉))を使用する可能性はあります。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。